

## 谷津田の暮らしの移り変わり

K.W (千葉市緑区大椎町在住・大椎小学校保護者)

私は小山町の谷津田につながる大椎町に幼いころから住んでいます。学校から田植えボランティア募集の手紙を見たとき、田んぼの作業をしていた両親の姿を思い出し、改めて両親がどんなことをしていたのか振り返ってみたくなり、子どもたちの稲作の手伝いに参加するに至りました。

私が幼かった頃の米づくりは今のような大型機械中心の作業ではなく、田植え、稲刈りとほとんど手作業が中心でした。田んぼの形もきれいな四角形だけでなく、細長い形やひょうたんのような形、小さな田が地形の高低に沿って連なっていました。田植え前になるとそれぞれの田に水がひかれ、田と田の境目には家の人の手によって“くろぬり”（泥で通路を整える作業）がなされます。整えられた田んぼと水の輝きに子どもながらももうききした記憶が残っています。その頃のお手伝いといえば、苗を運ぶこと、必要に応じて田の所々に束ねた苗を投げる、刈り取った稲を小田足まで運んで下げる、収穫したもみの天日干し等で、遊びの合間にそれもひとつの遊びの延長としてお手伝いをしたという感じでした。

手伝いが一段落するとザリガニをとったり、フナ、カエル、カマキリ、トンボ等の生き物を見たり、笹舟を浮かべたり、たんぼの茎で音をならすといった遊びをしていました。けれども谷津田は山あい位置しているので夕暮れがとても早く感じられて、作業途中の両親にもう家に帰ろうと何度も声をかけてしまうこともしばしばだったように記憶しています。

子どものころは谷津田での農作業の大変さに気づきませんでした。谷津特有の泥深い田んぼも多く、中には太ももや腰までもぐってしまう田んぼもあり、作業はしにくかったようです。このような田んぼでは、小舟を使って田植えや刈り取りをしたという話も聞いたことがあります。また、田んぼが谷間にあることで農機具や収穫物の運搬が大変だったそうです。当時、移動や運搬に使っていたのは“耕うん機”が主流でした。もちろん“土の道”プラス坂道でしたので、雨上がりの翌日などは滑りやすく、安全な運搬ということだけでも気づかうことが多かったと思います。自宅から離れた場所にある谷津田の米づくりは特にいろいろな作業の場面において倍の労働力と時間を要し、維持していくこと自体が困難だったようです。

それでも湧水があるということは水が枯れる心配はありません。排水さえ確保しておけば、洪水、日照りなどの自然災害の影響を受けにくい谷津田は稲作のしやすい土地だそうです。また、山林からは燃料となる薪を取ることでもきたため、多くの農家は山の手入れもしていました。このように食料、燃料の調達のできる谷津は生活に根ざした場所だったようです。今も大椎町、板倉町、小山町の山のふもとに家々が建ち並んでいるのはそのためと言えます。

土気駅の南側の地形は起伏が多く、今のあすみが丘のところどころにも谷津田があり、稲作をしている場所があったと記憶しています。しかし、後継者不足や機械化できないことにより、谷津田のあちらこちらに休耕田をつくることとなってしまうました。

近年、外国米や農作物の輸入、減反政策、農業に携わる人々の高齢化等の理由も重なり、日本国中のあちらこちらに休耕田が増えてきています。それでも農家の人達は協力し合い、工夫を重ねながらおいしい米づくりを目指して頑張っています。大椎、板倉、小山町に連なる田んぼは昭和63年から平成7年にわたって土地改良がなされました。大型機械が入りやすいように小さく区切られた田んぼを合わせて一枚の大きな田にしたり、車が入りやすいように要所要所に太い道が整備されました。これによって大型機械中心の作業形態に変わり、労働時間の短縮、労働力不足が解消されつつあり、以前よりも安定した収穫が得られるようになりました。

これからは後継者がどのように米づくりを支え、次世代に継承していくのか、それがこの土地だけでなく米づくりを守っていく人々の課題であるといえます。最近では農業とは全く異なった環境の中で育った若者が研修を経て就農するといううれしいニュースも耳にします。頼もしい限りです。

大椎小では3年前から実際に田んぼをお借りして生きた米づくり体験学習を行っています。社会科の教科



スゲがさをかぶり、藍染めの着物で作業をしている風景。藍染めは虫よけ効果があるので野良仕事では重宝した。

(Wさんが小学生の時に描いた絵日記より)

書や資料で田植えの写真や田の手入れの写真を見る時、子ども達の感覚の中に田んぼの泥の中に足を踏み入れた感触や頼りない細い苗の根を傷めないようにそっと田の中に植えた感覚がよみがえってくると思います。そして9月にはたくましく生長し、たくさんの実をつけた稲の刈り取りを体験します。この時、子ども達がどんな想いで収穫するのか楽しみです。

終わりにになりましたがこのような環境を提供し、子ども達の活動をあたたかく見守ってくださっている地主さん、小山町の方々、そして事前準備から体験活動をリードしてくださるYPPの方々に、大椎小児童の一保護者として深く感謝申し上げます。

## 谷津田いきもの図鑑 No. 34 スズメ

一番身近な鳥であるスズメに今、大きな異変が起きつつあることをご存知でしょうか。

スズメは日本にいったい何羽ぐらいいるのでしょうか。この長年の疑問に、立教大学の三上さんが、日本には繁殖する成鳥が約 1800 万羽いると答えを出しました。三上さんは、秋田、埼玉、熊本の三県で、商用地、住宅地、農村、森林、その他の環境という5つの環境で繁殖するスズメの成鳥を数えあげ、全国の面積の分で掛け算をして個体数を推定しました。この数値は、ヒナや若鳥の数は含まれていないので、秋にはこの数倍になると考えられるので、スズメは日本に数千万羽いると思われる。そして、いろいろなスズメの過去のデータから現在のスズメの個体数は 1990 年当時から半減しているという推計がされています。私の行っている都市部のスズメのねぐら調査でも減少傾向が続いており、スズメが急激に減り始めているのは事実のようです。

スズメが減った原因は、よくわかっていませんが繁殖場所と食料の問題が大きいように思えます。昔ながらの日本家屋の瓦屋根などの家が減り、機密性の高いビルが増えてきたので、隙間に巣を作るスズメにとっては繁殖場所を探すことが難しくなったと考えられます。また、空き地や水田の減少もスズメの繁殖にとって大きな脅威になっていると考えられます。その他いろいろな要因が働いていると考えられます。

そのひとつとして細菌感染があります。2005 年 12 月から 2006 年初めにかけて北海道で起きた、スズメの大量死をみなさんは知っていますか。1500 羽あまりのスズメが旭川、札幌両市周辺で死亡しているのが確認されました。原因は後に、不衛生な餌台に集まったスズメにサルモネラ菌などの細菌が感染し広がった可能性が高いことがわかりました。エサ台を通じた細菌感染は 2001 年にイギリスでも報告されています。細菌感染だけが原因ではありませんが、イギリスではどこでもふつうに見られていたイエスズメが、激減して現在では都市部で稀な鳥になってしまいました。餌台の設置は、鳥のためにやっていることですが、しっかり衛生管理をしないと、逆効果になることもあるのです。

スズメは人との関係がとても強い鳥です。下大和田にスズメが少ない原因も水田の減少と農家が近くにないことが大きな原因と考えられます。日本の建物の変化、里山の自然の荒廃、餌台の設置など人との関係でスズメの生活にも大きな変化が出ていることを考えてほしいと思います。最も身近な鳥のスズメが珍しい鳥にならないことを願っています。  
(越川重治)



群れて木に止まるスズメ（撮影：網代春男）

### イベント参加費の変更について

下大和田・小山町で開催される「谷津田プレーランドプロジェクト（YPP）」および下大和田の「谷津田の観察会とゴミ拾い」につきまして、下記のとおり、10月より参加費を変更することとなりました。小学生未満のお子さんの参加費が無料となり、ちば環境情報センター会員の皆さんの参加費が値下げになります。

#### ◆下大和田YPP

変更前：子どもも大人も一律 300 円、食材費を伴うイベント（収穫祭など）は一律 500 円

変更後：一般＝小学生以上 300 円、ちば環境情報センター会員および家族＝小学生以上 100 円  
食材費を伴うイベントは小学生以上 500 円

いずれも小学生未満は無料

#### ◆谷津田の観察会とゴミ拾い（ちば・谷津田フォーラムとの共催）

変更前：子どもも大人も一律 300 円

変更後：一般・会員ともに小学生以上 100 円、小学生未満は無料

#### ◆小山町YPP

変更前：子どもも大人も一律 100 円 → 変更後：小学生以上 100 円、小学生未満は無料



# 里山たんけんレポート

## 第116回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2009年9月6日(日) 晴れ

マムシ出現！116回目を迎えた観察会で初めてマムシに出会いました。われわれに驚いてかじ字溝に落ちましたが網で救出しました。マムシは筋力が弱いと聞いていましたが、近づくとすばやく動いたり、攻撃を仕掛けてきたりしました。頭の形や模様など観察して放してやりました。オニヤンマがナガコガネグモの巣に掛かった瞬間を見ました。クモも獲物が大きいせいかすぐには近寄らずとおまきにいったり来たりしていました。オニヤンマは暴れているうちに翅が折れたり動きが鈍くなっていくようでした。そのすぐ脇ではオニヤンマが産卵していました。命を繋ぐ生と死を同時に見てしまいました。捕まえたノシメトンボが手にもたれたまま次々と卵を産み可哀想とすぐ放してやったりもしました。昼食後はハイイロチョッキリが落としたコナラのどんぐりを割って中に産み付けられた卵を顕微鏡で見たり、メダカやザリガニ取りを楽しんで解散しました。

(参加者 大人7名、子ども5名； 報告：網代春男)

## 第100回 下大和田 YPP「みんなでわいわい！コシヒカリの稲刈り」 2009年9月19日(土) くもり

シルバーウィーク初日は下大和田谷津田の稲刈りの日です。雨こそは降りませんが、空は厚い雲で覆われ、風が吹くと少し肌寒いようなお天気です。しかし田んぼで作業するにはちょうどよいお天気でしょう。九時半を過ぎるころに常連のスタッフの皆様が集まり始めました。おのおのが準備を始めます。たくさんの方が稲刈りに参加されても対応できるように準備をします。鎌を砥ぐ人、長靴を準備する人、雑草を抜く人、鳥よけのテープを取り除く人、刈った稲の束を結ぶための藁を用意する人。誰が指示をしなくともそれぞれに仕事を見つけ着々と準備が進みます。集合時間である10時に近くに近づくに従い心配になってきました。一般の参加者が少ないのです。今のところ数人でしょうか。このままでは今日の作業は大変だなとか、告知の仕方が悪かったのかなとか、頭の中で様々な反省や心配事を繰り返します。10時を回った頃ようやく一般の参加の皆様が到着し始めました。多くが小さなお子様連れのご家族で、しかもかなりの人数です。心配は杞憂に終わったようです。



集まったところで、私のなれない進行役で、本日の予定や注意点の説明をしました。高山さんがフォローしてくれます。石橋さんには稲刈りのレクチャーしていただきました。いよいよ稲刈りのスタートです。一般の参加者の多くはこの谷津田に何度かこられた方々です。田植えの時の参加者も多いようです。自分で植えた稲を収穫したいのでしょう。最初はなれない手つきで作業がなかなかかどりません。しかし小学校低学年くらいの子供達がぶかぶかの長靴をはいて、田んぼの中で本当に頑張ってくれました。それでは大人たちが頑張らないわけにはいきません。次第に手際もよくなり、作業の効率が上がってきます。お子様たちの働きに感謝！感謝！です。おかげでお昼を少し回ったところで大きなコシヒカリ田んぼの刈り取りが終わりました。楽しいお昼ごはんを食べて、1時を回ったところで午後の刈り取りがはじまります。通称カヤネズミ田んぼです。さらに慣れた手順で、こちらは3時前に終了しました。稲刈りの作業中に出あえる多くの生き物と触れ合う楽しみがありました。また田んぼのあちらこちらで弾んだ会話が聞こえました。今年もコシヒカリの田んぼの稲刈りは無事終了しました。収穫祭も多くの人が参加してくれそうです。またみんなで手分けをして準備をしましょう。

(参加者 大人22名、小中学生11名、幼児3名；報告：平沼勝男)

## 第49回 小山町 YPP「コシヒカリの稲刈り」

2009年9月26日(土) くもり

地元の方の田んぼで育てたコシヒカリを刈りました。例年よりもちょっと分けつが少ないかなという印象ですが、稲穂が垂れている様子はうれしいもので、サクッ、サクッと稲を刈る音が心地よく感じられます。竹を藁で組むオダの作り方を昨年地元の方に教えていただいたのですが、うろ覚えでちょっと戸惑い気味。でも何とかそれらしくできあがり次々と稲を掛けていきます。放っておいたコナギやヒエなどの雑草がたくさん生えていて、来年のことを考えて雑草も刈ったので時間がオーバーしてしまいましたが、何とか一番大きな田んぼの稲刈りを済ませることができました。



子どもたちはカエルやサワガニ、ヤゴを探すのにずっと熱中していました。

(参加者 大人10名、小学生3名、幼児1名；報告：高山邦明)

稲刈りは大人に任せて子どもたちは生きものさがしに熱中！

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 9月6日 田んぼでミズオオバコが咲く(高山)。  
9月13日 モズの高鳴きがにぎやか。林縁でセンニンソウが咲き、田んぼで緑米の出穂がはじまる(高山)。  
9月23日 ゲンノショウコ、イヌジソ、ミゾソバ、キバナアキギリなど秋の草花が一斉に開花して畦の花畑が見頃。サシバの鳴き声を聞く(高山)。  
9月26日 イオウイロハシリグモの卵塊にたくさんの子グモ(“まどい”)。スズメの群れが稲穂を狙う(高山)

### 下大和田

- 9月19日 モズが元気に高鳴きを聞かせてくれる。田んぼにオニヤンマが頻繁に訪れる(高山)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

### ▼第101回 下大和田 YPP「みんなでわいわい! 古代米の稲刈り」

コシヒカリに続いて古代米の稲刈りです。最後に実る緑米を刈ります。収穫祭でのもちつきのためにみんなで元気よく稲刈りをしましょう。鎌を使った作業ですが、小さなお子さんでも大丈夫ですよ。

日時: 2009年11月1日(日) 10:00~14:00 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、軍手、帽子、敷物など。

参加費(資料代等): ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

### ▼第50回 小山町 YPP「古代米の稲刈り」

6月に植えた古代米の緑米を刈ります。大人から子どもまでみんなで力を合わせて元気に刈りましょう。

日時: 2009年10月31日(土) 10:00~12:30 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場  
(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、軍手、帽子、敷物など。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

参加費が変更となっています。詳しくは2ページをご覧ください!

### ▼第118回 下大和田11月の谷津田観察会とごみ拾い

アオジなど冬鳥もやってくる頃です。深まった秋の谷津を散策します。午後まで時間の取れる方は田んぼの草取り作業にご協力いただければと思います。今回はYPPの古代米稲刈りと同時開催となります。

日時: 2009年11月1日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

**編集後記** 今月号の谷津田いきもの図鑑で野鳥専門家・越川さんに紹介いただいたスズメが今年は田んぼにすいぶんたくさん来ているようです。下大和田では地元の方がオダがけしたお米がたくさん食べられてしまったと伺い、YPPのオダにしっかりとキラキラテープを張りました。小山では地元の方の稲刈りが終わっており、YPP田んぼがかっこうの餌場となっている様子で、稲刈りをしている間中、隣接するアシ原からスズメの声がとてみにぎやかに聞こえていました。いったい何羽いるのか想像すると怖くなります。そんなスズメも全国的には数が減っているというのは驚きでした。私たちの田んぼでは多少、スズメたちに収穫をおすそ分けしてあげたいと思います。

(高山邦明)

